

## 「ステファノの弁明 6」

2016年04月05日

使徒言行録 7章 44節～50節。「わたしたちの先祖には、荒れ野に証しの幕屋がありました。これは、見たままの形に造るようとモーセに言われた方のお命じになったとおりのものでした。この幕屋は、それを受け継いだ先祖たちが、ヨシュアに導かれ、目の前から神が追い払ってくださった異邦人の土地を占領するとき、運び込んだもので、ダビデの時代までそこにありました。ダビデは神の御心に適い、ヤコブの家のために神の住まいが欲しいと願っていましたが、神のために家を建てたのはソロモンでした。けれども、いと高き方は人の手で造ったようなものにはお住みになりません。これは、預言者も言っているとおりです。『主は言われる。「天はわたしの王座、／地はわたしの足台。お前たちは、わたしに／どんな家を建ててくれると言うのか。わたしの憩う場所はどこにあるのか。これらはすべて、／わたしの手が造ったものではないか。』」

ステファノは偶像礼拝の罪を語り始めた。モーセに率いられた荒れ野の40年間、神の大きな恵みと祝福に与りながら、神に背を向け、真の供え物をしなかった。金の子牛の偶像を作り、これにいけにえを献げて礼拝した。アモスの時代も、異教の神々を担ぎ回って、これらを拝んだ。アモスは、その罪がバビロン捕囚の裁きを受けると預言した。ステファノはこれらの偶像礼拝から、エルサレム神殿を偶像化している現状について言及した。

荒れ野を旅したイスラエルの先祖はモーセが命じた通りの「幕屋」を作った。幕屋は留まる所に設営し、旅する時はたたんで運ぶ礼拝所である。モーセの後継者ヨシュアは神が追い払ってくださった異邦人の土地を占領した時も、幕屋を運び込んだ。イスラエルの民は神が約束したカナンに侵入し、土地を12部族に分割して定着した。ダビデの時代まで、神の声を聞き、信仰を捧げる幕屋での礼拝は受け継がれてきた。カナンに定住後、ダビデは神殿を建てたいと願った。しかし、彼は幾多の戦争によって、その手は血塗られているので、神殿建設が許されなかった。ダビデの子ソロモンが、莫大な費用と民の労力を費やし、荘厳な神殿を完成させた。その時の民の喜びはひとしおであった。ソロモンは神殿が完成した時、下記のような祈りを捧げている。「神は果たして人間と共に地上にお住まいになるのでしょうか。天も、天の天も、あなたをお納めすることができません。わたしが建てたこの神殿など、なおふさわしくありません。わが神、主よ、ただ僕の祈りと願いを顧みて、僕が御前にささげる叫びと祈りを聞き届けてください」（歴代誌下6章18節、19節）。ソロモンは自分が建てた神殿に神をお納めすることはできない、ふさわしくない、ただ、私の祈りと願いを顧みて、御前に聞き届けてくださいと祈っている。ソロモンは神の偉大さは人間の業を超えると謙遜に祈っている。

ステファノはソロモンの祈りにイザヤ書66章1節b、2節の言葉を重ねて「天はわたしの王座、／地はわたしの足台。お前たちは、わたしに／どんな家を建ててくれると言うのか。わたしの憩う場所はどこにあるのか。これらはすべて、／わたしの手が造ったものではないか」と言っている。天は神の王座、地は神の足台。全ては神の手で造られたものである。人間の手では、神が住まい、憩う神殿など造り得ない。

ステファノの時代の神殿はヘロデ王が建てたもので、ソロモンが建てた神殿よりも遥かに壮大で、荘厳であった。人々は神殿を誇り魂の故郷とし、偶像化していた。ステファノはこの神殿に神はおられないと語った。人々の怒りが燃え上がることは必定である。